

[3] 母校だより

(1) 京都大学地球系教室及び関係教室の近況

(a) 社会基盤工学専攻・都市社会工学専攻・土木工学コースの近況報告

社会基盤工学専攻専攻長、土木工学コース長 宇野 伸 宏

令和2年度社会基盤工学専攻の専攻長を仰せつかっております昭和63年学部卒、平成2年修士課程修了の宇野伸宏と申します。併せて地球工学科土木工学コースのコース長を担当しております。なお、都市社会工学専攻の専攻長は、

藤井聡教授が担当されています。

それでは、土木系教室の近況報告を申し上げます。まず、表1に示します通り、教員の在籍状況をご報告申し上げます。土木系の研究室は、工学研究科社会基盤工学専攻に20研究室、都市社会工学専攻に17研究室、地球環境学堂に1研究室、情報学研究科に3研究室、学術情報メディアセンターに1研究室、計42研究室、95名で構成されています。特定・特任教員やJSPS特別研究員を含めると、非常に大きな組織となっております。

表1 土木系講座・分野の教員の在籍状況（令和2年10月31日現在）

社会基盤工学専攻

講座名	分野名	教授	准教授, 講師	助教
応用力学			西藤 潤, KHYYER, Abbas	田中 智大 ⁺
構造工学	構造材料学	山本 貴士 [*]		
	構造力学	杉浦 邦征 ⁺	北根 安雄	五井 良直
	橋梁工学	八木 知己		野口 恭平
	構造ダイナミクス	高橋 良和	安 琳	植村 佳大
	国際環境基盤マネジメント		金 善玟, 張 凱淳	
水工学	水理環境ダイナミクス	戸田 圭一 [*]	山上 路生	岡本 隆明
	水文・水資源学	立川 康人	市川 温, 萬 和明 ^{**}	
地盤工学	地盤力学	木村 亮	木元小百合 [*]	木戸隆之祐
	社会基盤創造工学	金 哲佑		
空間情報学		宇野 伸宏	須崎 純一	木村 優介
都市基盤設計学	景観設計学	川崎 雅史	山口 敬太	
	沿岸都市設計学	後藤 仁志	原田 英治 ⁺	五十里洋行, 清水 裕真
防災工学 (防災研究所)	砂防工学	藤田 正治	竹林 洋史	宮田 秀介
	防災水工学	中川 一	川池 健司	山野井一輝
	地盤防災工学	渦岡 良介		上田 恭平
	水文気象工学	中北 英一	山口 弘誠	
	海岸防災工学	森 信人	志村 智也	宮下 卓也
	防災技術政策		佐山 敬洋 LAHOURNAT, Florence	
	水際地盤学	平石 哲也	馬場 康之 ⁺⁺	

*: 経営管理大学院併任, +: 地球環境学堂併任, **: 工学基盤教育研究センター, ++: 白浜海象観測所

都市社会工学専攻

講座名	分野名	教授	准教授, 講師	助教
構造物マネジメント工学		高橋 良和 (兼担)		高谷 哲
地震ライフライン工学		清野 純史	古川 愛子	
河川流域マネジメント工学		細田 尚	音田慎一郎	
ジオマネジメント工学	土木施工システム工学		PIPATPONGSA, Thirapong	
	ジオフロントシステム工学	三村 衛	肥後 陽介	澤田 菜伊
	国際都市開発		QURESHI, Ali GUI	
都市社会計画学	計画マネジメント論		松島 格也	
	都市地域計画		松中 亮治, 大庭 哲治 [*]	
都市基盤システム工学		岸田 潔	澤村 康生	宮崎 祐輔
交通マネジメント工学	交通情報工学	山田 忠史 [*]	SCHMOECKER, Jan Dirk	中尾 聡史
	交通行動システム	藤井 聡		川端祐一郎

[3] 母校だより

都市国土管理工学 (防災研究所)	耐震基礎	澤田 純男	後藤 浩之	
	地域水環境システム	田中 茂信	田中 賢治	
	水文循環工学	堀 智晴		
	災害リスクマネジメント	CRUZ, Ana Maria	横松 宗太	
	自然・社会環境防災計画学	角 哲也	竹門 康弘, KANTOUSH, Sameh Ahmed	野原 大督
	都市耐水	五十嵐 晃	米山 望	

*：経営管理大学院併任

学術情報メディアセンター

講座名	分野名	教授	准教授	助教
計算工学 (学術情報メディアセンター)		牛嶋 省		鳥生 大祐

地球環境学堂

講座名	分野名	教授	准教授	助教
社会基盤親和技術論		勝見 武	高井 敦史	

情報学研究科 社会情報学専攻

講座名	分野名	教授	准教授	助教
地域・防災情報システム学 (防災研究所)	防災社会システム	多々納裕一	SAMADDAR, Subhajyoti	
	巨大災害過程	矢守 克也	大西 正光	中野 元太
	災害情報システム	畑山 満則	廣井 慧	

令和元年6月から2年10月の間の人事異動を表2に示します。退職されました教員としては、令和2年3月末日で河野広隆教授が定年退職を迎えられました。大津宏康教授が早期退職され、松江工業高等専門学校校長として異動されました。両先生の永年の研鑽に敬意を表しますとともに、土木系教室が先生方から薫陶を受けました事に対し、衷心より御礼を申し上げます。また、服部篤史准教授が本学の社

会基盤工学専攻インフラ先端技術産学共同講座特定教授へ異動されています。新規採用といたしましては、志村智也准教授が防災研究所特定助教より、廣井慧准教授が名古屋大学から、清水裕真助教、植村佳大助教、中野元太助教、宮下卓也助教がそれぞれ着任されています。また、山本貴士教授が昇任されています。

表2 土木系教員人事異動 (令和元年6月～令和2年10月)

●退職		
都市社会工学専攻		
R1.9.30	Flores Barron, Giancarlo Augusto 准教授	(ジオマネジメント工学講座国際都市開発分野) ⇒ UTEC 大学土木工学研究科教授へ
R1.3.31	河野 広隆 教授	(構造物マネジメント工学講座, 経営管理大学院) ⇒定年退職
	大津 宏康 教授	(ジオマネジメント工学講座 土木施工システム工学分野) ⇒国立高等専門学校機構 松江工業高等専門学校長へ
	北岡 貴文 助教	(ジオマネジメント工学講座 土木施工システム工学分野) ⇒関西大学 環境都市工学部 准教授へ
R2.6.15	服部 篤史 准教授	(構造物マネジメント工学講座) ⇒社会基盤工学専攻インフラ先端技術産学共同講座へ
R2.9.30	瀬木 俊輔 助教	(都市社会計画学講座 計画マネジメント論分野) ⇒神戸大学大学院工学研究科准教授へ
防災研究所		
R2.8.31	竹之内 健介 特定准教授	(気象・水象災害研究部門気象水文リスク情報 (日本気象協会) 研究分野) ⇒香川大学創造工学部講師へ
R2.9.30	佐々木 寛介 特定准教授	(気象・水象災害研究部門気象水文リスク情報 (日本気象協会) 研究分野) ⇒日本気象協会へ

●採用		
社会基盤工学専攻		
R1.10.1	清水 裕真 助教	(都市基盤設計学講座沿岸都市設計学分野) 日本学術振興会特別研究員より
R2.4.1	植村 佳大 助教	(構造工学講座構造ダイナミックス分野) 博士課程より
防災研究所		
R1.12.1	中野 元太 助教	(巨大災害研究センター巨大災害過程研究領域) 防災研究所研究員より
R2.2.1	宮下 卓也 助教	(気象・水象災害研究部門 沿岸災害研究分野) 博士課程より
R2.4.1	志村 智也 准教授	(気象・水象災害研究部門 沿岸災害研究分野) 防災研究所特定助教より
R2.5.1	廣井 慧 准教授	(巨大災害研究センター 災害情報システム研究領域) 名古屋大学工学研究科 情報・通信工学専攻 助教より
R2.10.1	山路 昭彦 特定教授	(気象・水象災害研究部門気象水文リスク情報 (日本気象協会) 研究分野) 日本気象協会より
	Che-Wei Chang 特定助教 (卓越研究員)	(流域災害研究センター 沿岸域土砂環境研究領域) 防災研究所特定研究員より
●昇任		
社会基盤工学専攻		
R2.3.1	山本 貴士 教授	(構造工学講座 構造材料学分野) 同分野准教授より
●配置換え		
社会基盤工学専攻		
R2.4.1	山本 貴士 教授	(経営管理研究部 (ダブルアポイントメント)) 構造工学講座 構造材料学分野より
●兼任		
都市社会工学専攻		
R2.6.16	高橋 良和 教授	(構造物マネジメント工学講座) 構造工学講座構造ダイナミックス分野との兼任

続きまして、土木系学生の本年4月就職状況を表3に示します。内閣・各府省(9名)、独立行政法人・団体(4名)、地方庁(1名)、鉄道・航空(10名)、建設(15名)は、ほぼ昨年並みです。特にここ数年建設へ就職する学生の人数は堅調に推移しております。一方、地方庁への就職者が、ここ数年の傾向として低調なのですが、本年も同様の状況であり、依然として深刻な状況が続いております。また、道路が昨年の2名から6名、電気・ガス・水道が7名から11名と各4名ずつ増やしております。道路などは近年のインフラの大規模更新の影響が出ているのかもしれませんが、就職は、旧来の学校推薦から自由応募へ移りつつあります。加えまして、新型コロナ禍での就職活動ということもあり、学生が個別にメールやSNS等で卒業生の皆様にお話を伺う機会も増えているかと思えます。京土会の皆様におかれましては、学生の就職活動におきまして、多様なご対応をお願いすることもあろうかと思えますが、何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

表3 土木系学生の就職状況 (令和2年4月)

就職先	学部	修士	博士	合計
内閣・各府省		9		9
独立行政法人・団体		3	1	4
学校				0
地方庁	1			1
道路		6		6
電気・ガス・水道		11		11
鉄道・航空		10		10
建設	1	13	1	15
鉄鋼・鉄構・機械・プラント・石油・造船		9		9
コンサルタント・設計	2	20		22
商社・銀行	1	5		6
情報通信・電機・電子・システム		11		11
不動産	1	2		3
サービス業・その他	2	5		7
合計	8	104	2	114

次に国際コースの状況をご報告申し上げます。本年度の国際コース長は、山田忠史教授が担当されています。国際コースは、平成23年度に一期生を受け入れて以来、9年が経過し、これまでの累計として、留学生92名、日本人74名の計166名の学英を受け入れてきました。今年度も初めてのスリランカからの学生1名を含む9名の留学生を迎え入れております。本年度は新型コロナ禍のため、前期は渡日できず、多くの留学生が母国にて遠隔講義を受講するという状況でありました。秋になり海外との人の往来が緩和されるとともに、国際コースの1回生もようやく京都に参ることができてきております。

例年ですと国際コースでは正規の授業科目として、国際インターンシップを開講しており、日本人学生は海外の現場へ、留学生は国内の現場へ派遣をし、土木系の現場での実務経験を積む機会を設けております。この国際インターンシップのみならず、学部学生の学外実習の受け入れに関

しては、京土会の皆様にご支援を頂いており、多くの国内外の現場への派遣が実現しております。日頃のご支援に対しまして、厚く御礼申し上げます。この国際インターンシップの様子は、毎年「京都大学工学部地球工学科国際コース奨学基金およびインターンシップにご支援いただいている皆さんと教員・学生の交流会」でご報告申し上げており、昨年の11月にも交流会を開催いたしました。この交流会は、学生さんにとっては、先輩諸氏と直接交流できる貴重な機会となっております（写真1参照）。

本年度は新型コロナ禍において学生を国内外の現場にてお受けいただくこと、特に海外に学生を送り出すことは極めて難しいと考え、誠に残念ではございますが、国際インターンシップ、学外実習とも不開講といたしました。インターンシップという形では難しいかとは思いますが、形を変えて学生たちが先輩諸氏と交流できる機会を、何か設けることができないか検討もいたしております。



写真1 第9回京都大学工学部地球工学科国際コース奨学基金およびインターンシップにご支援をいただいている皆様と教員・学生の交流会（令和元年11月18日）

国際コースの紹介でも触れましたが、新型コロナウイルスの感染拡大予防の観点から、土木工学教室におきましても、一部の実験、実習科目等を除きまして、講義の多くは遠隔講義として実施してきております。特に新入生にとりましては、京都大学に希望に燃えて入学したにも関わらず、同級生たちと交わりながらキャンパスライフを送ることもままならず、孤立感を感じている学生が少なからず居るこ

とも把握しております。教室としましても、新入生をはじめとして学生たちのケアにも心を配りつつ、できるだけ新型コロナ禍以前と同じレベルの教育・研究活動を進めるように努めておりますが、このためにも京土会ならびに卒業生の皆様に多様なご支援をお願い申し上げることもあろうかと思っております。どうか引き続き、土木工学教室の活動にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(b) 都市環境工学専攻の近況報告

都市環境工学専攻長 高岡 昌輝

今年度は残念ながらコロナ禍で京土会総会を催すことができませんでしたので、紙面にて都市環境工学専攻の近況を簡単に報告させていただきます。本年度、都市環境工学専攻の専攻長を仰せついております平成3年衛生卒の高岡と申します。よろしくお願ひいたします。

恒例によりまして、人事異動についてご報告申し上げます。まず、退職・転出としましては、令和2年3月31日付物質環境工学講座環境質予見分野（工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター）の蔚陽特定助教が清華大学研究員に転出しております。新規採用に関しましては、令和元年12月1日付で、物質環境工学講座環境質予見分野の助教に竹内悠氏が東京大学研究員より着任されました。本助教は工学研究科における青藍プログラム（若手の雇用・育成を促進する目的で2019年度より創設）により採用されました。また、令和2年4月1日に物質環境工学講座環境質予見分野の特定助教に賀凱氏が着任されました。次に昇任については、令和2年2月1日付で、エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻エネルギー社会環境学分野の亀田貴之准教授が教授に昇任いたしました。配置換としましては、令和2年4月1日には環境システム工学講座水環境工学分野西村文武准教授が、物質環境工学講座環境質予見分野の所

属になっております。

この人事異動によりまして、現在の都市環境工学専攻関連の教員一覧は下表のようになっております。

表1に示されておりますように、14の研究室で構成しており、桂キャンパスの6研究室、大津市、琵琶湖のほとりにあります流域圏総合環境質研究センターの2研究室、吉田キャンパス内の環境安全保健機構の2研究室、さらに、大阪府熊取町にあります複合原子力科学研究所内の2研究室が都市環境工学専攻を構成しております。さらに、この吉田キャンパス内にございます地球環境学堂に所属しております環境調和型産業論分野およびエネルギー科学研究科のエネルギー環境学分野を合わせ、14研究室、38名の教員で活動しております。

これらの研究室は京土会の皆さまよりご支援を賜りまして、順調に発展を遂げてまいりました。ここに改めて心より感謝申し上げますとともに、引き続き、ご支援のほどをよろしくお願ひいたします。

当専攻の近況に関しご報告すべきこととして、アジアを中心とした国際的活動の現況をお話させていただきたいと思ひます。中国・深圳拠点オフィスを清華大学深圳キャンパスに、マレーシア拠点オフィスをマラヤ大学に、ベトナム・ハノイ拠点オフィスをハノイ理工科大学に、タイ・バンコク拠点オフィスをマヒドン大学に置き、活動を継続し、優秀な留学生の獲得や学生の国際交流に役立てております。

表1 環境工学コース関連研究室教員名簿

大学院	専攻	講座名	分野名	教授	准教授	講師	助教	
工学研究科	都市環境工学	環境デザイン工学(桂)		高岡 昌輝	大下 和徹		藤森 崇 日下部武敏	
		環境衛生学(桂)		高野 裕久	上田 佳代		本田 晶子	
		環境システム工学	水環境工学(桂)				日高 平	
			環境リスク工学(桂)	米田 稔	島田 洋子			五味 良太
			大気・熱環境工学(桂)		藤森真一郎			大城 賢
			都市衛生工学(桂)	伊藤 禎彦	越後 信哉			中西 智宏
		物質環境工学	環境質管理(流環)	清水 芳久	松田 知成			
			環境質予見(流環)	田中 宏明	西村 文武	中田 典秀		井原 賢 竹内 悠 賀 凱
			環境保全工学(環保)	酒井 伸一	平井 康宏			矢野 順也
			安全衛生工学(環保)	橋本 訓	松井 康人			
			放射能環境動態(原研)		藤川 陽子			窪田 卓見
		放射性廃棄物管理(原研)		福谷 哲			池上麻衣子 芝原 雄司	
地球環境学大学院	地球親和技術学廊		環境調和型産業論(吉田)	藤井 滋穂	田中 周平			
エネルギー科学研究科	エネルギー社会・環境科学	エネルギー社会環境学	エネルギー環境学(吉田)	亀田 貴之			山本 浩平	

(桂)：桂キャンパスCクラスター

(環保)：京都大学環境安全保健機構(吉田)

(吉田)：吉田キャンパス

(原研)：京都大学複合原子力科学研究所(熊取)

(流環)：工学研究科附属流域圏総合環境質研究センター(大津)

具体的には、中国・深圳拠点オフィスは2005年に開設し、2012年度で終了したGCOEやEMLプログラム後も民間企業からの寄付や総長裁量経費等で活動を継続しておりましたが、2018年12月に京都大学オンサイトラボラトリーとして認定され、クロスアポイントメント教員（特定助教）と事務員を配置し、活動を行っております。地球環境学堂—清華大学深圳国際研究生院間の修士課程ダブルディグリープログラムが2019年度より開始されております。工学研究科においても同プログラムを進める予定にしております。マレーシア拠点オフィスは、2010年に開設し、その後も、JSPSアジア研究教育拠点事業「リスク評価に基づくアジア型統合的流域管理のための研究教育拠点」（2011年度～2015年度）、JSPS二国間交流事業（2017～2019年度）等で活動を継続しております。ベトナム・ハノイ拠点オフィスは2008年に開設し、2012年度で終了したGCOEやEMLプログラム後も地球環境学堂を中心とした全学経費や概算要求特別経費などで活動を継続しております。タイ・バンコク拠点オフィスは2015～2018年度の概算要求特別経費による事業を契機に2016年に設置しております。クロスアポイントメント教員（特定准教授）と事務員を配置し、京大・マヒドン大学間の修士課程ダブルディグリープログラムを実施するとともに、本拠点も2018年12月に京都大学オンサイトラボラトリーとして認定されています。本年はコロナ禍で国際交流は極めて厳しい状況におかれておりますが、オンライン会議などにより交流を保っていく予定です。

最後に就職状況についてご報告申し上げます。表2に示し

ますとおり、昨年度卒業、修了生は43名でした。その内訳を一覧として示しておりますが、大きな特徴は公務員が2年連続いなかったということです。昨今の状況を反映しているものと思いますが、環境産業とは別分野への就職も増えており、多様化しているように思われます。

令和元年度卒業・修了生の進路

就職した卒業・修了生：43名

公務員：なし

民間：

SMBC日興証券、アクセンチュア、出光エンジニアリング、応用技術、鹿島建設、日本ピーエス、JR東日本、レイヤーズ・コンサルティング、川崎重工業、クリアウォーターOSAKA、シンコー、ダイキン工業、日本総合研究所、デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム、JR東海、東京ガス、明治、東洋エンジニアリング、日本工営、日本製鉄、パシフィックコンサルタンツ、パナソニック、パナソニックライフソリューションズ社、富士通、ブラントック、三菱UFJ銀行、三菱UFJリサーチ&コンサルティング、三菱商事、メタウォーター(3)、横河電機、TECインターナショナル、エックス都市研究所、クボタ、神鋼環境ソリューション、大和総研、日立製作所、堀場アドバンステクノ

令和2年度の卒業・終了予定者の就職につきましてはほぼ終了しているところで、令和3年度の選考が始まりつつある時期と認識しておりますが、引き続きよろしく願いいたします。

以上、都市環境工学専攻の近況を簡単にご報告させていただきました。引き続き、よろしくご鞭撻ならびにご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

(2) 人事異動 (令和元年10月～令和2年10月)

(職名は異動後の職名, 但し () 内は異動前の職名)

【社会基盤工学専攻】

R1.10.1	清水 裕真	助 教	新規採用
R2.2.1	宮下 卓也	助 教	新規採用
R2.3.1	山本 貴士	教 授	構造工学講座構造材料学分野准教授より昇任
R2.4.1	志村 智也	准 教 授	新規採用
R2.4.1	植村 佳大	助 教	新規採用
R2.4.1	山本 貴士	教 授	構造工学講座構造材料学分野と経営管理研究部の併任へ配置換
R2.10.1	張 哲維	特 定 助 教	新規採用 (卓越研究員)

【都市社会工学専攻】

R2.3.31	河野 広隆	(教 授)	定年退職
R2.3.31	大津 宏康	(教 授)	退職 (松江工業高等線学校校長へ)
R2.3.31	北岡 貴文	(助 教)	退職 (関西大学環境都市工学部都市システム工学科准教授へ)
R2.6.15	服部 篤史	(准 教 授)	退職 (社会基盤工学専攻インフラ先端技術産学共同講座特定教授へ)
R2.6.16	高橋 良和	教 授	社会基盤工学専攻構造工学講座構造ダイナミクス分野と都市社会工学専攻構造物マネジメント工学講座教授の兼担へ
R2.7.16	高谷 哲	助 教	社会基盤工学専攻構造工学講座構造材料学分野助教より都市社会工学専攻構造物マネジメント工学講座助教へ所属換
R2.9.30	瀬木 俊輔	(助 教)	退職 (神戸大学大学院工学研究科環境共生工学講座都市経営工学分野准教授へ)

【都市環境工学専攻】

R1.10.16	越後 信哉	准 教 授	環境システム工学講座水環境工学分野より環境システム工学講座都市衛生工学分野へ所属換
R1.12.1	竹内 悠	助 教	新規採用
R2.4.1	西村 文武	准 教 授	環境システム工学講座水環境工学分野准教授より環境室予見分野准教授へ所属換

【情報学研究科】

R1.12.1	中野 元太	助 教	新規採用
R2.5.1	廣井 慧	准 教 授	新規採用

【地球系事務室】

R1.12.1	畑迫己代子	主 任	教務課主任 (教務掛 (地球工学科)) より教務課主任 (教務掛) へ配置換
R1.12.1	内田 崇美	事 務 職 員	新規採用 (地球工学科事務室)
R2.3.31	藤原 香織	事 務 職 員	退職
R2.3.31	栗田 真喜	事 務 職 員	退職
R2.3.31	内田 崇美	事 務 職 員	退職
R2.4.1	泉 恵子	主 任	桂地区教務課主任 (Cクラスター事務区教務掛) より桂地区教務課主任 (教務掛 (地球工学科)) へ配置換
R2.4.1	金木 朋子	主 任	桂地区教務課主任 (大学院掛) より桂地区教務課主任 (Cクラスター事務区教務掛) へ配置換
R2.4.1	米田 寿宏	主 任	桂地区総務課主任 (図書掛 (地球工学科)) より桂地区総務課主任 (利用支援掛 (地球工学科)) へ配置換
R2.4.1	高林 静香	事 務 職 員	桂地区教務課 (Cクラスター事務区教務掛) より人間・環境学研究科 (教務掛) へ配置換
R2.4.1	石田 英未	事 務 職 員	桂地区総務課 (図書掛 (地球系)) より桂地区総務課 (学術支援掛) へ配置換
R2.4.1	大藪 実穂	事 務 職 員	新規採用 (地球工学科事務室)
R2.10.1	工藤 俊和	事 務 職 員	新規採用 (桂地区総務課 (Cクラスター事務区庶務掛))
R2.10.1	米原 深幸	主 任	桂地区総務課主任 (Cクラスター事務区庶務掛) より桂地区総務課主任 (人事掛) へ配置換
R2.10.1	前田 恵里	事 務 職 員	新規採用 (地球工学科事務室)

(3) 学位授与 (令和元年11月25日～令和2年9月23日)

(課程博士)

NGUYEN DUC HA	R1.11.25	A COUPLED HYDROLOGICAL-GEOTECHNICAL FRAMEWORK FOR FORECASTING SHALLOW LANDSLIDE HAZARD (水文学と地盤工学の手法を融合した表層崩壊の発生予測に関する研究)	Song Chenlu	R2.3.23	Long-term observation of rock fracture permeability and structure under various pressure and temperature conditions (様々な拘束圧および温度条件下での岩盤不連続面構造と透水性の長期観測)
宮下 卓也	R2.1.23	海溝型巨大地震津波を対象とした確率論的津波ハザード評価の不確実性評価	沈 尚	R2.3.23	Bacterial Dynamics in Lake Biwa: from the viewpoints of the interaction with dissolved organic matter and viruses (琵琶湖における細菌動態の解明～溶存有機物およびウイルスの観点から～)
尹 成圭	R2.1.23	Development of the numerical procedure to describe multi-dimensional behavior of the alternating Pleistocene foundations (更新統互層基盤の多次元挙動を評価する数値解析手法の開発に関する研究)	CHENG YINGCHAO	R2.3.23	Behavior and Control of Mercury in Sewage Sludge Thermal Treatment Process (下水汚泥熱処理プロセスにおける水銀の挙動と排出制御)
植村 佳大	R2.3.23	埋込コンクリートヒンジを活用したRC柱の危機耐性向上策に関する研究	Myo Min Win	R2.3.23	Thermochemical conversion characteristics of gas and tar generation from waste biomass and plastics (バイオマスおよびプラスチック廃棄物を用いた熱化学変換によるガス及びタール生成特性)
Noerdin Basir	R2.3.23	Tropical peat type shoreline protection by detached breakwater and vegetation in Bengkalis Island of Indonesia (インドネシア国ブンカリス島における離岸堤と植生を用いた熱帯性海岸防護に関する研究)	XIONG YIQUN	R2.3.23	Study on behavior of heavy metals in semi-aerobic landfill sites of municipal solid waste incinerator residues (都市ごみ焼却残渣の準好気性埋立地における重金属類の挙動に関する研究)
MYA SAN WAI	R2.3.23	Robustness Evaluation of Long Span Truss Bridge Using Damage Influence Lines (損傷影響線を用いた長大トラス橋のロバスト性評価)	清水 大吾	R2.3.23	People's Water and River Perceptions in the Selangor River Basin, Malaysia (マレーシア国セランゴール川流域における人々の水と川に対する意識に関する研究)
Xuzhao Lu	R2.3.23	Nonlinear Seismic Responses of High-Speed Railway System considering Train-Bridge Interaction (列車-橋梁連成系を考慮した高速鉄道システムの地震時非線形応答解析)	宮田 佳和	R2.3.23	マスコンクリート表層部の温度応力ならびに乾燥収縮ひずみに着目したひび割れ幅予測手法に関する研究
松本 毅	R2.3.23	Study of Long Span Bridge Design Based on Long Term Maintenance in Developing Countries (途上国における長期維持管理を前提にした長大橋の設計法に関する研究)	孫 文喆	R2.5.25	Bus Bunching Prediction and Transit Route Demand Estimation Using Automatic Vehicle Location Data (バスロケーションデータを用いたバスバUNCHINGの予測と路線バス利用者の需要推定に関する研究)
王 嘉奇	R2.3.23	Aerodynamic performance of bluff bodies with openings on side surface (側面開口部を設けたブラフボディの空力特性に関する研究)	西田 佳記	R2.5.25	環境負荷低減に向けた下水処理プロセスおよび制御技術に関する研究
Pham Thi Viet Nga	R2.3.23	Groundwater exploitation and its impact on saltwater intrusion in the context of sea level rise due to climate change in Mekong Delta, Viet Nam (ベトナムメコンデルタを対象とした気候変動による海面上昇および過剰揚水に伴う塩水化に関する研究)	FARZAD TALEBI	R2.9.23	STUDY ON BEHAVIOR OF BURIED PIPELINES SUBJECTED TO EARTHQUAKE FAULT MOVEMENT BY ANALYTICAL, NUMERICAL AND EXPERIMENTAL APPROACHES
小柴 孝太	R2.3.23	Improvement of Signal Analysis for Surrogate Bedload Monitoring at Sediment Bypass Tunnels (排砂バイパストンネルにおける掃流砂間接計測のための信号解析手法の高度化)	HE XINHAO	R2.9.23	Dynamic Characterization of Aseismic Bearings for Girder Bridges: Bi-directional Seismic Performance Assessment and Design Parameter Exploration (耐震機能を有する桁橋用支承の動的挙動特性分析: 2方向地震動に対する性能評価および適正設計値の探索)

THIN THWE THWE	R2.9.23	FUNDAMENTAL STUDY ON UNDULAR AND DISCONTINUOUS HYDRAULIC JUMPS BY MEANS OF A SIMPLIFIED MOMENTUM EQUATION (簡易型運動量方程式を用いた波状跳 水及び不連続跳水に関する基礎的研 究)	Norhidayah Binti Abdull	R2.9.23	Model Simulation and Health Risk Assessment on Traffic-Induced Air Pollution in Urban Environments : A Case Study of Kyoto City, Japan (都市環境における交通起源大気汚染 のモデルシミュレーションと健康リ スク評価：京都市でのケーススタ ディ)
ZIN NAUNG HTUN	R2.9.23	Assessment of Dynamic Response and Seismic Zonation of Osaka Depositional Basin Based on the Geoinformatic Database (地盤情報データベースに基づく大阪 堆積平野の動的応答特性とサイス ミックゾーニングに関する研究)	Huynh Tan Loi	R2.9.23	Greenhouse gas emissions from blackwater septic systems in Hanoi, Vietnam (ベトナム・ハノイにおけるし尿腐敗 槽からの温室効果ガスの排出)
PARK, Hyejeong	R2.9.23	Development of a Community-Based Natech Risk Management Framework Through the Lenses of Local Community, First Responders and Government (地域コミュニティ, 第一応答者, 政 府の視点を通じたコミュニティベー スのNatechリスクマネジメントのフ レームワークの開発)	KYOUNGSOO PARK (論文博士) AZIZI BIN ABU BAKAR	R2.9.23 R2.3.23	被災下水処理場の暫定処理水に対す る塩素やオゾン, 紫外線による消毒 方法の評価に関する研究 POTENTIALLY TOXIC ELEMENT CONTAMINATION IN MALAYSIAN CLOSED URBAN LANDFILLS : GEOCHEMICAL INDICES AND GEOSTATISTICAL ANALYSIS (マレーシアの閉鎖都市埋立処分場 における有害元素汚染の可能性：地球 化学的指標と地球統計学的解析)
Luksanaree Maneechot	R2.9.23	Impacts of Future Climate Change in Water Resources Management at the Chao Phraya River Basin, Thailand (タイ国チャオプラヤ川流域の水資源 管理に及ぼす気候変動の影響)	小林 寛明	R2.5.25	山岳トンネル完成後の盤ぶくれを防 ぐインバート構造に関する研究
成宮 正倫	R2.9.23	上下水道処理施設における微量化学 物質の分析と監視に関する研究	山路 昭彦	R2.7.27	豪雨発生メカニズムを考慮した高詳 細レーダ情報に基づく実時間降雨予 測システム開発に関する研究
馬 綴宇	R2.9.23	Occurrence and characterization of antibiotic-resistant Escherichia coli in wastewater and surface water (下水と表流水の薬剤耐性大腸菌の存 在実態と特徴)			
Diana Rahayuning Wulan	R2.9.23	Ecological Risk Assessment of a River Water on Agricultural Area in West Java Province, Indonesia and Comparison with Whole Effluent Toxicity Test (インドネシア西ジャワ地方農業地区 における河川水の生態リスク評価と WET試験との比較)			
WANG QUAN	R2.9.23	Development and evaluation of harvesting and lipid extraction processes for biodiesel production from microalgae (微細藻類からのバイオディーゼル生 産のための収穫法と脂質抽出法に関 する研究)			
Wenlu Wang	R2.9.23	Laboratory Simulation and Evaluation of Aerosol Particles Penetration, Deposition and Removal Processes in Sheltering Houses Equipped with Ventilation System (換気システムを備えた待避家屋にお けるエアロゾル粒子の侵入, 沈積お よび除去プロセスの実験室シミュ レーションと評価)			

(4) 学生の進学・就職状況

令和元年度の大学院および学部学生の進学就職状況は次の通りである。(R2.10.1)

(尚、各学科専攻長報告の数と若干相違有)

	大 学 院		大 学 院		学 部	
	(博 士)		(修 士)		(4 回生)	
博士課程			社基 都社 都環 学舎 情報	2 3 5 1 2		
修士課程					地球	111
研究生・その他 (他大学)	社基 都環 学舎	1 3 1			地球	9
学校関係	社基 都社 都環	3 5 4				
環境省	都環	1				
国土交通省			社基 都社	2 3		
独立行政法人			都社	2		
都道府県			社基 都社 情報	1 1 1		
市町村			社基	2		
各種外郭団体・ 地方公社	都社	1				
道路			社基 都社	3 3		
電力・ガス・水道			社基 都社 都環	9 6 2		
鉄道・航空			社基 都社	8 6	地球	3
建設会社	学舎	1	社基 都社 都環 学舎	8 8 4 2	地球	4
鉄鋼・鉄構・機械・ 電機・電子	都環	1	社基 都社 都環 学舎 エネ科	11 2 9 2 1	地球	4
コンサルタント	都環	1	社基 都社 都環 学舎	4 6 5 1	地球	5
銀行・商社・ 証券・保険			社基 都社 エネ科	2 1 1	地球	3
不動産			社基	1		

	大 学 院		大 学 院		学 部	
	(博 士)		(修 士)		(4 回生)	
環境産業			社基 都環	1 2		
シンクタンク			都社 都環	1 2		
協会			社基 都社	1 1		
情報通信	都社	1	社基 エネ科 情報	1 1 1	地球	1
サービス業・ その他	社基 都社 都環	7 4 3	社基 都社 都環 学舎 情報 エネ科	14 14 5 2 1 2	地球	9
合計	社基 都社 都環 学舎	11 11 12 2	社基 都社 都環 学舎 情報 エネ科	70 57 34 8 5 5	地球	149
		36		179		149

(5) 国際コースと留学生

工学研究科では、博士後期課程への留学希望者の増加に応じて多くの留学生を受け入れてきたが、教育指導は基本的に日本語を用いて行われているため、優秀な学生でも言語の障壁のため本研究科への応募を躊躇することが数多くあった。このような問題に対応するため、平成13年度から平成24年度まで英語のみを使用する博士後期課程総合工学特別コースが実施された。さらに、社会基盤工学専攻・都市社会工学専攻では修士課程を対象とする国際コースを平成23年4月から、工学部地球工学科では学部生を対象とする国際コースを平成23年4月から開設している。